

第6回尼崎市生物多様性地域戦略策定部会 議事次第

日時 : 令和6年3月15日(金曜日) 午前10時00分から午前11時00分まで
場所 : 尼崎市役所中館 8階 8-2 会議室 (Web会議システム併用)
出席委員 : 6人
傍聴者 : 1人

○開会

- ・定足数の確認
- ・資料確認

○議事

議題1 尼崎の自然ハンドブック(案)について

事務局 :

—資料1、資料2について説明—

部会長 :

それでは、ただいまの説明についてご意見があればよろしくお願いたします。

委員 :

形がまとまってきて、非常に分かりやすくなってきたと思いながら拝見しました。重要種という名前を希少種に変え、希少性で選んだものにするという点も、分かりやすくてよいのではないかと思います。つながり種とそうでない種との違いは明確さということでしたら、これも入れてよいのではないかと思うところがいくつかありますが、皆が見つけやすく、今後このつながり種をどのように活用できるか、どのような活用の手だてを考えていくかがポイントになりそうだと感じています。

一つ確認したいのですが、ハンドブックに載せている種の順番は、どのように考えているのですか。特に、巻末に出てくるものはどのような順番で並んでいるのか、疑問に感じたので教えてください。

事務局 :

掲載順については、特にルールは決めておらず、作業上、資料がそろってきた順という面が強いです。

委員：

何らかの基準をつくり、ストーリーがあったほうがよいのではないのでしょうか。例えば、公園のページなどは掲載スペースの形もいびつなので、色合いなどレイアウト的なことを考慮する方向でよいかもしれませんが、巻末の、種だけがずらりと並んでいるページは、何らかの基準があるほうがよいのではないかと思います。

部会長：

どのような順番が考えられますか。

委員：

前のほうのページは、色合いなどを考えてもよいかもしれませんが、後のほうは種の分類群で、植物は植物でまとめるか、あるいは季節と言っているので、季節的な流れでもよいかもしれませんが。しかしそうすると、例えばイシガメなどのいつでも見られるものをどこに入れるかなど、難しいものもあるかもしれません。花や昆虫などは、季節感があってもよいのではないかと思います。

部会長：

時間もないので、ここで順番を決めてしまったほうが良いと思います。例えば、あいうえお順や、あるいは昆虫群、魚類と順番を決めるなどです。現段階だとばらばらで、説明されたように、特に意図せず置いているとのことなので、何らかの意図で並べ直したほうがよいとは思いますが、その順番を言ってもらえるとありがたいです。

事務局：

これは一応、小学生や生き物にそれほど詳しくない方に使ってもらうことを想定しているので、あいうえお順に並べても、そもそも種の名前などが分からない人が手に取っている可能性が高いですし、季節も難しいと考えました。植物や鳥類など、一目見て植物だと思ったときに、植物で探せるほうが、使いやすさという点では現実的かもしれません。そのため、生き物の種類などでまとめて、その中ではあいうえお順にするという辞書のような感じになるかもしれませんが、そのようにして並べることを考えました。いかがですか。

部会長：

分類群で並べ直す方向で検討してください。ただし、その分類群をどのような順番に並べるのかという問題があります。

委員：

分類群の中なら、環境でくくるなどしたほうがよいのではないのでしょうか。鳥だったら樹

林の鳥と水辺の鳥が明確に分かれるので、その辺りは固めたほうがよいと思います。

同じようなところで、季節のつながりと書いてあり、13 ページには『どんな季節とつながりがあるのか考えながら』と書いてありますが、答えというか、見に行きたいと思っても、いつ見られるのかの情報が、あらためて見ると少ないと思いました。20 ページにはヒメボタルの紹介がありますが、季節の記載はありません。今から全て付け加えることは大変だと思いますが、何か工夫ができませんでしょうか。春や、6月から8月などと書いてあるものもありますが、ヒメボタルの箇所が気になりました。

事務局：

文章のスペースの関係がありますが、春に見られる、夏から秋にかけてなど、なるべく季節のことは書けるだけ書こうと思っています。ヒメボタルの箇所も書こうとっているので、余白のスペースを見ながら、書き足せる部分は書き足していきます。

委員：

ヒメボタルは22 ページに大々的に取り上げてくれているので、それでもよいと思いますが、20 ページにもできれば記載してもよいと思いました。それと、私が知人に提供を受け、お渡ししたツマキチョウの写真に、撮影者氏名を入れてほしいとリクエストしたのですが、他の写真には入っていないので、これにだけ入れるのもおかしいですし、削除してもらってもよいかもしれません。本人には言っておきます。

部会長：

他に意見はありませんか。

委員：

感想です。マンガで解説している所や絵で解説している所は非常にかわいらしくて分かりやすく、良いと思いました。

部会長：

先ほど、ヒメボタルの幼虫が食べるものはキセルガイだと言っていました。そのキセルガイの名前は分かっていますか。

委員：

恐らくナミギセルだと思いますが、同定はしていません。

部会長：

結構大きいですか。

委員：

大きいです。3センチくらいです。

部会長：

それを食べているのですか。

委員：

実際に食べているところを見たことはありませんが、そこに最も多く見られるものがそれなので、それを食べていると思います。

部会長：

これまで国土交通省などがヒメボタルの調査をしたときに、餌がよく分からないとのことで、いつも明確になっていませんでした。ここで陸の貝を食べるとなっていますが、キセルガイということがはっきり分かっているのだとすれば、名前を入れてもよいのではないかと思いました。そうすれば、命のつながりのようなものが伝わるかと思います。

委員：

同所的にすんでいることは間違いありません。しかし他の貝も、一般的な生態としては食べます。猪名川に住んでいるものは、他のものも食べている可能性があります。猪名川でキセルガイはあまり見たことがありません。自然林や農業公園にはキセルガイがたくさんいます。

部会長：

地面にいるということですか。

委員：

そうです。貝単独では見つかります。猪名川の河川敷では見たことがないので、そこではまた違う貝を食べているかもしれません。従って、一概にキセルガイと書くのはどうかという感じはします。

部会長：

他にヒメボタルの研究をしている方はたくさんいると思います。そうした中で、食べるものはありますか。

委員：

他の貝も食べているという報告はあります。外来性のオカチョウジガイなど、泡を出して防いでいると書いているものもありましたが、その他の貝も食べていると思います。

部会長：

尼崎でヒメボタルは非常にシンボリックな種ですし、4ページの『全ての命はつながっている』という所もあるので、具体的にキセルガイ類として出せば、陸の貝を食べているというイメージが湧くと思うのですが。

委員：

22ページはスペースにまだ余裕があるので、陸の上で暮らすという丸1番の所に、『農業公園などではキセルガイを食べているようです』などとも書いてもよいかもしれません。

部会長：

そのくらいは修正できますか。

事務局：

はい。おそらく、文章を増やす分には大丈夫だと思います。ただし、もしよければ、キセルガイの写真などがあれば提供してほしいです。

委員：

今は思い付きませんが、撮影すれば恐らく見つかると思います。

部会長：

とにかくヒメボタルはシンボリックなものなので、キセルガイの写真があれば非常に良いと思います。ぜひよろしくお願いします。

委員：

わかりました。

事務局：

キセルガイは農業公園と猪名川自然林でよろしいですか。

委員：

それらでは確認できています。川では確認できていません。

委員：

非常に小さなことですが、21 ページの真ん中が『川の生き物の探しの技』になっていて、『の』が一つ多いです。

部会長：

そうした字の間違い等もあれば、どんどん指摘してもらったほうがよいと思います。本年度中に印刷するとのことなので、今のうちに分かっているおかしな点があれば、ぜひお願いします。

部会長：

他に意見等はありませんか。

委員：

もう一つ、すみません。26 ページの右上の四角の中、『エノキ、ムクノキ中心の明るい林』の2行目に『エノキやムクノキを復元し』と書いてありますが、これは『エノキやムクノキの林を復元し』という言葉のほうがよいのではないのでしょうか。

部会長：

これは間違っているので修正してください。他に何かありませんか。
タマムシは、正式な名前はタマムシでよいのですか。

委員：

図鑑や人によって表現が変わっているので、何を基準にするかによります。

部会長：

タマムシが一般的に使われているなら、よいかと思います。

委員：

最近はやマトタマムシが多いですが、タマムシでもよいのではないのでしょうか。

部会長：

他に、字の間違い等でもあれば指摘してください。

委員：

中身についてはあまり詳しくないということもあり、まとまっている印象です。表現について強いて言えば、ハンドブックの最後のほうの『出掛けてみよう』で、どのような所にどのような生き物がいるかをリストにされていますが、おおよそどこにいるかは書かれてい

るものの、書かれていないものも少しあります。

私の理解では、例えばコゲラがどこにいるかということや、カブトムシが樹林とだけ書いてあることなどは、あまり限定して、猪名川自然林だけにいると書くと、皆がここに取りに行ってしまうため、配慮があつたりするのかもしれないと思っています。しかし、ここは『出掛けてみよう』なので、どこにいるかを絞れるならもう少し書いてもよいのではないかという印象は、全体的にありました。ただし、種ごとに2行しか書くスペースがないので、限界があることも踏まえ、これくらいがまとまった感じでよいのだろうかという印象もあり、積極的には発言しませんでした。

部会長：

ありがとうございます。修正できるようであれば、考えてみてください。他はありませんか。

委員：

ありがとうございます。私もあえてですが、最後の『出掛けてみよう』の、31ページ以降の生き物の並べ方がばらばらだという点が、少し気になっていました。先ほど分類群順に並べるという話がありましたが、一般人、特に子ども向けのパンフレットなので、分類群順も、植物や鳥や虫という分け方にする程度でよいかと思います。どちらかという、陸域の生物と水域の生物というように、大きく分けたほうが見やすいのではないかと思いました。

部会長：

ありがとうございます。並べ方で、陸と川を分けたほうがよいのではないかとということと、種の配置の問題もあるので、それは検討していただき、取りあえずは分類群にしてください。他に何かありませんか。

委員：

誤植を見つけました。29ページ下の海釣り、括弧、の部分は、これは上のルビが横にはみ出しているのではないのでしょうか。

事務局：

修正いたします。

委員：

本当に細かいですが、31ページ目のカワラバトの説明に、『日本で一番目にする鳥』とあります。これは、最も目にする鳥ということだと思いますが、表現が紛らわしく、これだと『一番目、にする鳥』と読めてしまいます。『最も目にする鳥』とするか、ルビが『いちば

んめ』とまとまっているので、『いちばん』と『め』を離して書くか、誤解のないようにしたほうがよいと思いました。

部会長：

ありがとうございます。これは直したほうがよいでしょう。たくさんの人に見てもらおうと、いろいろ修正すべきところがあります。そうした細かい点でも構わないので、意見をいただければと思います。

委員：

子どもでも分かりやすく、しっかりとマンガやイラスト、特に写真も入れてあるので、全体として非常に見やすいという印象を受けました。

部会長：

ありがとうございます。他に何か、細かい点でもあればお願いします。

部会長：

18 ページの、尼崎の森中央緑地のことで、草地や湿地になっています。尼崎の森中央緑地では草地と言っていましたか。草原にしていまませんでしたか。

委員：

ススキ草原、チガヤ草原と言っています。芝生もあるという意味で、草原と芝地とを併せて草地でよいと思っています。

部会長：

他はよろしいですか。大体この辺りだと思いますが、恐らく、細かく見ると字の間違いなどはあると思うので、もしそれに気が付いたら事務局に連絡してください。印刷もすぐかかるそうなので、できるだけ早くお願いします。また、キセルガイの写真をぜひ撮ってもらいたいと思います。

委員：

分かりました。

部会長：

せっかく尼崎のシンボルの所なので、少し補強したいと思います。事務局、それでよろしいですか。

事務局：

はい。

部会長：

では、他に意見等がなければ事務局にお返しします。事務局から何かありますか。

事務局：

環境部長です。本日に限らず、令和4年7月に審議会が始まってから、長時間にわたってご審議いただき、本当にどうもありがとうございました。本日まだ多少の意見をいただいたので、その意見等も踏まえて環境学習冊子を作成し、来年度以降の環境教育や啓発などに活用していきたいと考えています。繰り返しになりますが、委員の皆さまにつきましては、長きにわたりご審議いただき本当にありがとうございました。

部会長：

以上をもって、本日の部会を終了します。尼崎の生物多様性戦略については15年以上前から尼崎市に、ぜひ戦略をつくってほしいとお願いし続けてきました。最初の段階では、尼崎のような自然のない所では、そのような戦略は要らないという話でしたが、尼崎のように自然に恵まれない所だからこそ、こうした戦略がより必要ではないかと伝えてきて、それを受け入れてくれてやっとなり、完成させることができました。皆さま、本当にどうもありがとうございました。

以 上